

福井の海中公園とその現状



夏梅 晃一

福井県福祉環境部自然保護課

*はじめに

福井県には、若狭湾国定公園の海を代表する「三方海中公園地区」が制度発足後間もない昭和四十六年、「名勝 三方五湖」に隣接する常神、食見・世久見地区沿岸に指定されています。

*「海浜自然センター」がオープン！

海中公園地区と、福井の浅海の自然への理解を深めるため、福井県は三方海中公園地区指定二十周年に当たる平成三年から「マリンスキー」のネーミングでスノーケリングによる海中自然観察会の行事を開催してきました。この行事などが実を結び、昨年七月、浅海の自然体験学習の拠点施設となる「福井県海浜自然センター」が三方町食見地区に無事オープンしました。このことは、この誌面でも何度か紹介していただき、既にご



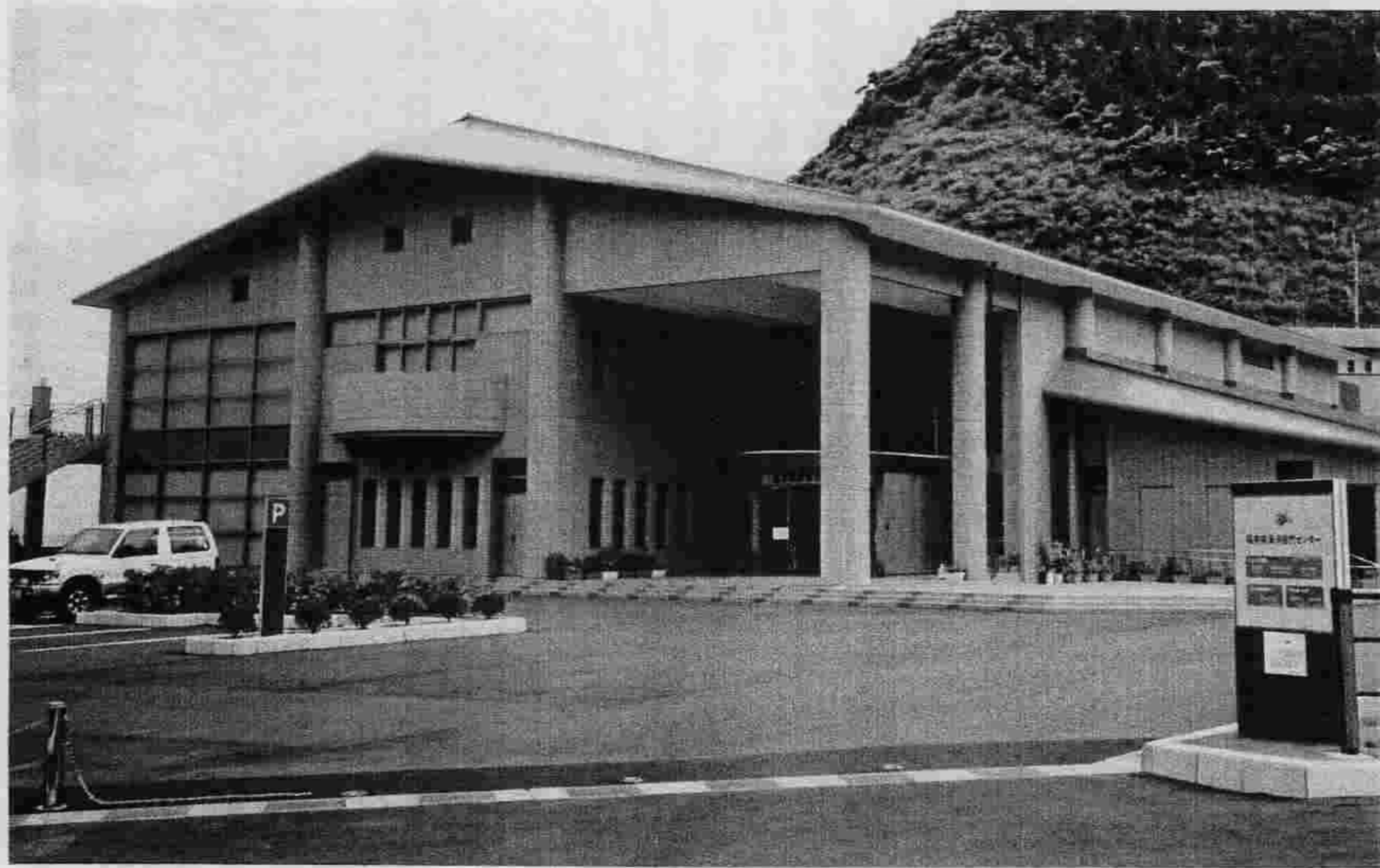
海中公園 烏辺島

存じの方も多いかと思えます。無事にとというのは、都道府県が主体となって「スノーケリングによる海の自然体験学習」を中心据えた施設づくりに取り組むことが全国で初めてのことだったからです。

施設づくりどころかスノーケリング行事そのものも都道府県が主催するのは全国的に例がなく、開催にこぎつけるまでは県の中でもなかなか時間を要しました。

*三方海中公園の自然
三方海中公園の海は、荒波荒れから初秋にかけては驚くほど穏やかな表情を見せてくれます。水温も水面付近は二十度にも届きそうな勢いで上昇し、ウエットスーツを着て浅瀬に佇んでいると、温泉にでも入っているかのように感じられる年もあるくらいです。

皆さんが最も関心のある海中の生物に話を移しましょう。三方の代表的な海中景観は、ノコギリモクなどの褐藻類が繁茂するガラモ場に温帯性の小・中型魚が群遊する景観と、サンゴ類が生息する海中洞窟です。



▲福井県海浜自然センター



▲海浜自然センターにはスノーケリング用器材が充実している。

また、海中洞窟内は、フトヤギやウミイチョゴ、ウミシダ類などの暖海性の無セキツイ動物と、ムツサンゴのような寒海性の無セキツイ動物が混在する独特の海中景観となっています。

*海の自然体験学習

昨年の海浜自然センターオープンとともに、マリンスキーに代わるスノーケリング講座が、海の自然体験講座のメイン講座としてスタートしました。

マリンスキーは、年に一度、

大人だけを対象にした行事で、南伊豆海洋生物研究会や財団法人海中公園センターの方々に講師としてご参加いただき、少数の県内の講師とともに参加者の指導に当たってききました。

しかし、昨年からはより多くの方々に三方の海の自然を体験していただくため、対象を小学校高学年以上に、開催回数も年に数回と拡大しました。このため、講座を、「指導者養成」、「親子ふれあい」、「一般向け」の3つの構成に分け、県内の指導者養成にも力を入れていくことになりました。

今後、講座内容の充実と安定した講座運営のための土台づくりが肝心ですので、南伊豆海洋生物研究会の皆さんには、今後ともご支援を賜りますようしくお願いいたします。



▲海中観察会の様子。

ひいては、今の子供たちが大人になった時代にも、三方海中公園が美しい自然を見せ

とつながると思います。海中公園への理解を深めること

このかけがえのない「未知なる海」を探求し、県内外の一人でも多くの方々にその美しさ、大切さを体感していただくことが、一般の方々の三方

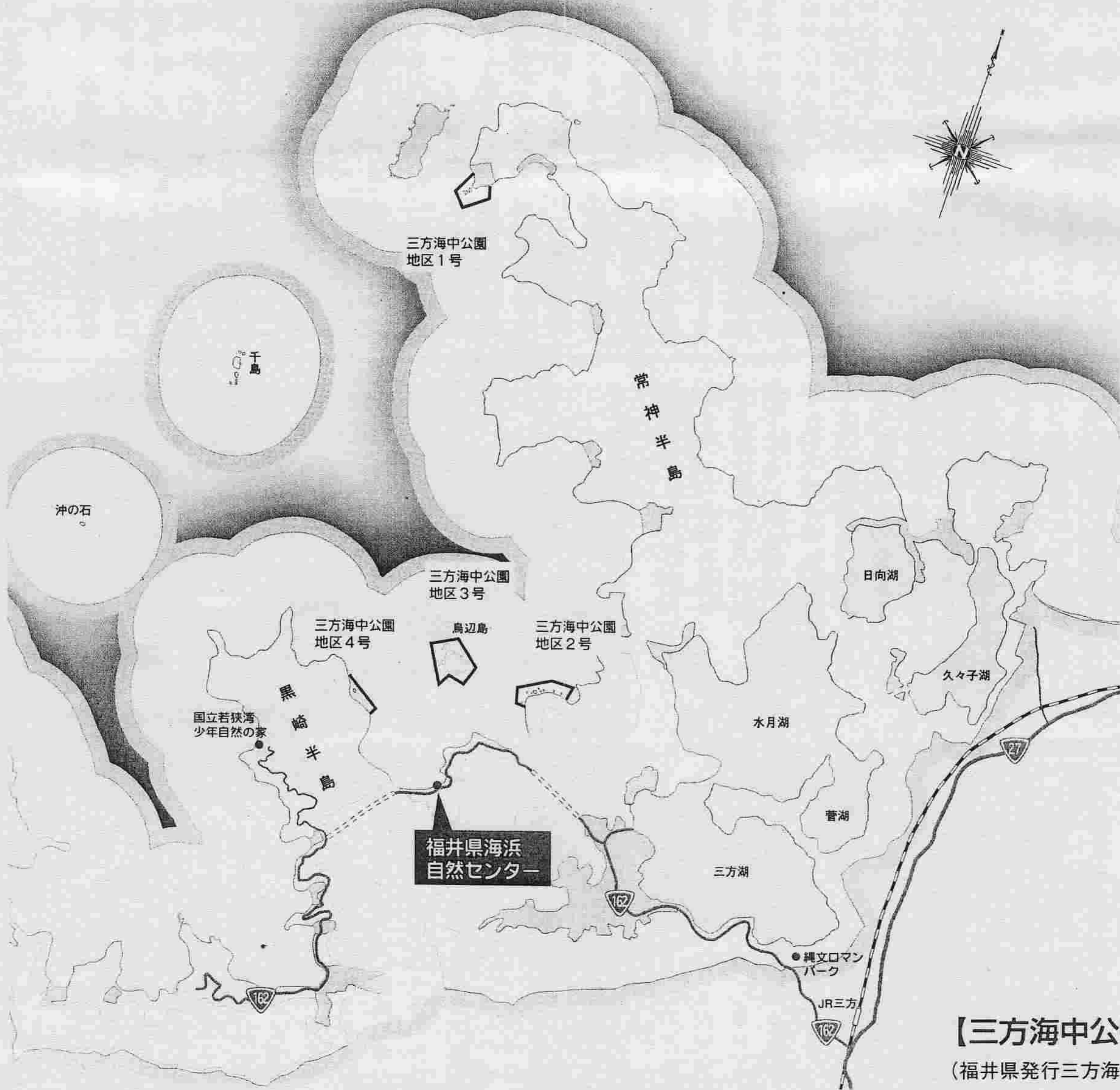
昨年今のダイビングブーム等で南の海にばかり関心がある人たちにとっては、一見非常に平凡で退屈な海と映るかもしれません。しかし、そこに生まれた子供たちや生活していく我々にとってはかけがえのない海であり、繰り返し海中を体験する度に新たな発見がある「未知なる海」でもあります。

三方の海は、日本海中部の海中景観を代表する海中公園といえます。小笠原や沖縄のように色鮮やかな熱帯魚が群遊するサンゴ礁の海とは異なる非常に落ち着いた海中景観です。

今年に更に、地元三方町の努力で、三方五湖湖畔に念願の縄文博物館が館長に哲学者の梅原猛先生をお迎えしてオープンすることになり、にわかには活気づいています。

かつて陸の孤島といわれた常神や食見地区は、アクセス道路やトンネルの築造、センターとその周辺整備等に多くの方々の努力が費やされました。

てくれることにつながり、そのことが、若狭湾一体の持続的発展に寄与してくれることを願っています。



【三方海中公園】

(福井県発行三方海中公園地図より)